様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：１４１０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2017～2018
課題番号：１７Ｈ０６７６１

研究課題名（和文）外国にルーツを持つ家庭を対象とした公共図書館の読書支援に関する実証的研究

研究課題名（英文）Study on Public Libraries' Reading Supports for Families with Foreign Backgrounds

研究代表者
和気　尚美（Wake, Naomi）

三重大学・地域人材教育開発機構・助教

研究者番号：８０７９９７４２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は，外国にルーツを持つ家庭を対象に公共図書館が実施する読書支援の実態を利用者・運営の双方の視点から明らかにすることを目的とする。
　日本国内では3市を対象に調査し，海外にルーツを持つ世帯に対するブックスタートの運営の実態や実施体制を探った。また上記3市にて実施されたブックスタートや関連事業における利用者の実態を質的調査により明らかにした。
　また英国およびスウェーデンにおける移民を対象としたブックスタートの実態を，全国的な推進団体を対象に調査することで政策的視点から迫った。加えて上記の国において，公共図書館における移民を対象としたブックスタートの地域レベルでの取り組みを究明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は国内外におけるブックスタートの展開方法と実施体制を示した。日本では現状ブックスタートの実施の有無や外国にルーツを持つ家庭への支援は，各自治体の判断に委ねられており，自治体間で差異がある。一方本研究では，スウェーデンのように文化評議会が国レベルの文化機関として介在し，全国から社会経済的に困窮する世帯の多い自治体を対象地域に選択するといった展開方法が明らかとなった。このような知見は，今後さらに多文化化の進展が予想される日本のコミュニティにおいて，図書館に限らず公共セクターが外国にルーツを持つ世帯に公共サービスを提供する際の制度設計や対象の選択において議論を深める一助となりうる。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to clarify the reality of public libraries' reading supports so called the Bookstart from two points of view; users, and Promotion organization and libraries.
 In Japan, this project conducted surveys in 3 multicultural communities in order to find out the implementation and the system of the Bookstart project especially for families with foreign roots. In the above 3 cities, this project approached to the users of the Bookstart with foreign backgrounds through participant observation and interview survey.
 Also it was found that the implementation of the Bookstart especially for immigrants and refugees in the UK and Sweden from a policy perspective through interviews with national promotion organizations. Further more, in the UK and Sweden, thorough the interviews with librarians, it was clarified that the way of approaching to the users of the Bookstart with immigrants backgrounds.

研究分野：図書館情報学

キーワード：ブックスタート　外国にルーツを持つ家庭　読書支援　移民　難民　公共図書館

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

国境を越えた人の移動が増加する中，移住先社会において乳幼児を抱え生活する世帯の存在は看過できない。乳幼児のいる外国にルーツを持つ家庭では，親のみならず，子の言語習得に取り組む必要が生じると共に，育児や保健等に関する諸制度や公共サービスの把握が不可欠となる。

乳幼児のいる家庭が新生児の誕生後，程なくして享受できる公共サービスの 1 つにブックスタートがある。ブックスタートは，“絵本を介して赤ちゃんと家族のコミュニケーションを豊かにし，子どもの言語能力と豊かな心を育てようとする図書館と保健所の協力活動”と定義される取り組みである。（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会「ブックスタート」『図書館情報学用語辞典』丸善出版, 2013, p. 213.）ブックスタートは 1992 年に英国のバーミンガムにおいて児童読書基金団体のブックトラスト（Booktrust）が推進母体となり始動した。地域の図書館，保健センター等を介して，ブックスタートパックと呼ばれる絵本や推薦絵本リスト，アドバイス集，公共サービス情報等の入った一式が当該自治体に居住する乳幼児を持つ全世帯に配布される。

日本では 2001 年からブックスタート支援センター（現 NPO ブックスタート）が推進団体として活動している。2017 年 2 月現在，実施自治体数は 985 市区町村で，これは全国の約 57%にあたる。近年，一部の自治体は，住民の民族構成の変容に合わせ，ブックスタートにおいて外国にルーツを持つ家庭への対応を進めており，多言語での通知文・アドバイス集の作成，健診会場における通訳の配置を行っている。ブックスタートを多言語で展開しているのは日本のみではない。

そもそも英国においてブックスタートが始まった背景には移民の増加に伴った識字率の低下があった。現在も英国では，ブックスタートパックを約 20 言語で準備しているほか，オンラインで視聴可能な絵本のコンテンツを 20 言語で提供している。（Brock, Avril; Rankin, Carolynn. Communication, Language and Literacy from Birth to Five. SAGE publications, 2008, p.29.）

申請者がこれまで研究対象としてきたデンマークでは，文化省城・文化局（Slots- og Kulturstyrelsen）が中心となり，ブックスタートを，生活保護を受ける世帯に焦点を当て展開している。ブックスタートパックの受領対象者の大部分は移民や難民が占めており，国立統合図書館センター（Stats BiblioteksCenter for Integration）は，アドバイス集や推薦絵本のリスト等を 10 言語で作成し提供している。また，移民人口の多い地区では，移民の背景を持つ者がブックスタート担当職員（Bogstartmedarbejder）として公共図書館で雇用されている。(Espersen, Helle H. Evaluering af samarbejdet i Projekt Bogstart. Det Nationale Institut for Kommuners og Regioners Analyse og Forskning, 2016, p.51-52.) ブックスタート担当職員にインタビューを行った際，ブックスタートは移民が公共サービスに接続する際に立ちはだかる心理的なハードルを引き下げていると知ったことが，本研究の着想に至った経緯である。

では，多様な文化的な背景を持つ住民は，ブックスタートをどのような場として捉えているのだろうか。既述したように，ブックスタートは保護者と乳幼児とが絵本を介して触れ合う契機を創出することを目的とした事業である。ここで批判的視座に立つならば，外国にルーツを持つ家庭に対するブックスタートは，移住先社会への適応を促すための制度化の諸力が作用する仕組みとも捉えることができる。事業の展開方法によっては，文化受容の強要や，言語習得の強制等，ホスト先社会への早急な適応を促す事業にもなり得る。

しかしながら，仮にブックスタートがホスト社会の制度化の諸力が作用している仕組みであるとして，ブックスタートに参加する外国にルーツを持つ者がその諸力を否応なしに受け入れているとは限らない。ブックスタートという場に対し，独自の解釈で機能を付与し，自身の辿るライフコースに合わせて新たな意味付けをしている可能性もある。

ブックスタートを取り上げた先行研究には，ブックスタートをナショナルプロジェクトとして展開しているオーストラリアの国レベルの報告（Bundy, Alan. “Australian Bookstart: A National Issue, a Compelling Case,” Australasian Public Libraries and Information Services. vol.17, no.4, 2004, p.196-217.）や，ブックスタートが保護者や児童に与える影響を 2005 年から継続的に調査している研究（原崎聖子・篠原しのぶ・彌永和美・渡邉晴美「ブックスタート経験が保護者及び児童に与える影響 : 小学 6 年時追跡調査」『福岡女学院大学紀要人間関係学部編』no.17, 2016, p.61-68.等），関東地区におけるブックスタートの実施状況について扱った研究（中村仁美・南部志緒「ブックスタートの実態調査と効果的な実施方法についての検討」『日本図書館情報学会誌』vol.53, no.2, 2007, p.75-89.）がある。しかし，外国にルーツを持った家庭に照射してブックスタートを論じた研究は行われていない。加えて，先行研究において基本的にブックスタートは正善なものとして論じられており，批判的視点を含んだものは存在していない。

２．研究の目的

本研究は，批判的視座を確保しつつ，外国にルーツを持つ家庭を対象に実施しているブックスタートに焦点を当て，提供されているサービスの実態と提供体制を明らかにすると同時に，移住先社会において乳幼児の育児に取り組む世帯がブックスタートをどのような場として利用しているのか，その利用実態に迫る。そして，海外における先行事例の検証を通して，今後日本の公共図書館は乳幼児を抱える外国にルーツを持つ家庭を支えるために，他機関との連携協力の中で，どのようなサービスの拡充や提供体制の整備が必要かを示す。

３．研究の方法

本研究は 4 つのフェーズから成り，各フェーズでは，文献調査，インタビュー調査，参与観察調査を組み合わせて研究を遂行した。フェーズ 1 では，海外にルーツを持つ世帯に対するブックスタートの実施状況と運営体制について，国内 3 市にてフィールドワークを実施する。フェーズ 2 では，上記した 3 市においてブックスタートの実施会場となっている保健センターや図書館内でフィールドワークを行い，参加する外国にルーツを家庭の方を対象に，インタビュー調査および参与観察を実施した。フェーズ 3 では，ブックスタート発祥の地である英国と，移民・難民を重点対象としてブックスタートを展開しているスウェーデンにおいて現地調査を行い，日本のブックスタートの状況を俯瞰的に検討するための視座を獲た。最後にフェーズ 4 で研究を総括し，今後日本の公共図書館が，乳幼児を抱える外国にルーツを持つ家庭を支えるために必要なサービスの拡充策や提供体制の整備案を検討した。

４．研究成果

主な研究成果としては下記の事項があげられる。

・日本国内におけるブックスタート推進団体である Bookstart Japan を訪問し，関係職員に

インタビュー調査を実施した。インタビューから外国にルーツを持つ者を主な対象に当該団体が行っている取組や関係資料について確認した。また，調査対象となる国内公共図書館の所在を特定した。

- 2018 年 2 月に英国へ出張し，ブックスタートの推進団体である Booktrust を訪問して関係職員にインタビューを実施した。また，近年移民が多く移住している Coventry という自治体の公共図書館を訪問し，インタビュー調査を通して担当職員からブックスタートの実施状況や利用者の反応，関連諸団体との連携を明らかにした。
- 愛知県 1 館，静岡県 1 館，大阪府 1 館の公共図書館計 3 館を訪問し，館長や担当職員を対象としたインタビュー調査を介して当該自治体におけるブックスタート事業の実施状況を尋ねた。加えて，実際にブックスタート会場に参加し，ブックスタート事業担当職員，ボランティア団体スタッフ，参加市民などの発言や行動を参与観察した。
- スウェーデンの首都ストックホルムへ出張し，ブックスタートの推進団体であるスウェーデン文化評議会（The Swedish Arts Council）を訪問した。文化評議会ではブックスタート担当職員を対象にインタビュー調査を行い，ブックスタートの第 1 フェーズ・第 2 フェーズにおける実施状況や，文化評議会と対象である地域レベルの公共図書館とのコミュニケーション，関連諸団体との連携について探究した。
- スウェーデンへ出張し，ブックスタートの対象図書館に選択されていた公共図書館の担当職員に対しインタビュー調査を行った。対象としたのは，西ハーニンゲ図書館（Vaesterhaninge Bibliotek），ボットキルカ図書館（Bibliotek Botkyrka），ハルノサンド図書館（Harnosands Bibliotek）である。インタビューではブックスタートの実施状況や利用者の反応，地域内における関連諸団体との連携に迫っていった。
- 国内外における外国にルーツを持つ者を対象としたブックスタートの概況と各国における特徴について，2018 年 3 月に中部図書館情報学会において「外国にルーツを持つ家庭を対象にしたブックスタート事業の展開」というタイトルで研究報告を行った。
- 『多文化社会の社会教育：公民館・図書館・博物館がつくる複数の研究者らと共同で出版した「安心の居場所」』という共著本の中で，「第 8 章移民・難民のくらしに寄り添う公共図書館」という箇所を担当した。その中で「移民・難民の多様な課題解決を支える公共図書館のプログラム」として，外国にルーツを持つ者を対象としたブックスタートの概況と特徴について，特にデンマークに焦点を当てて論述した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 和気尚美	４．巻 39
２．論文標題 移民・難民に対する図書館サービスを支える北欧の国境を越えた協力体制	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本生涯教育学会年報	６．最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 和気尚美	４．巻 335
２．論文標題 スカンジナビアにおける難民・庇護希望者に対する公共図書館サービス	５．発行年 2018年
３．雑誌名 カレントアウェアネス	６．最初と最後の頁 23-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 和気尚美
２．発表標題 外国にルーツを持つ家庭を対象にしたブックスタート事業の展開
３．学会等名 中部図書館情報学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 和気尚美
２．発表標題 欧州難民危機後のデンマークにおける移民・難民への公共図書館サービス
３．学会等名 北ヨーロッパ学会2018年度研究大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 渡辺 幸倫，川村千鶴子，金塚基，土田千愛，呉世蓮，大谷杏，阿部治子，宮原志津子，和気尚美，若園雄志郎，郭潔蓉，玉井昇	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 208
３．書名 多文化社会の社会教育：図書館・博物館・公民館がつくる「安心の居場所」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考